

生徒の英語学習への意欲を高める工夫をしましょう

生徒の英語力の向上を図るには、生徒の英語学習への意欲を高めることが大切です。教師は、生徒にとって「分かる授業」を行い、「分かった」「できた」という喜びを実感させ、生徒が英語学習に前向きに取り組めるようにしましょう。

1 「分かる授業」を展開しましょう

先生方は、日頃から、生徒にとって分かりやすい授業を行おうと努力されていると思います。しかし、英語の授業が「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と思っている本県生徒の割合は、約4割（平成16年度教育課程実施状況調査より）となっています。



英語の授業は
分かるわ。

約4割の生徒の回答

これから、生徒にとって「分かる授業」を展開するためのポイントを、二つ示しますので、ぜひ参考にしてください。

授業の始めに「本時のねらい」をはっきり示しましょう

このことは、栃木県学力向上委員会からも提言されています。授業のねらいを分かりやすく示すことによって、生徒はその授業を通してどのような力を身に付けられるか理解でき、目的意識をもって授業に臨むことができます。

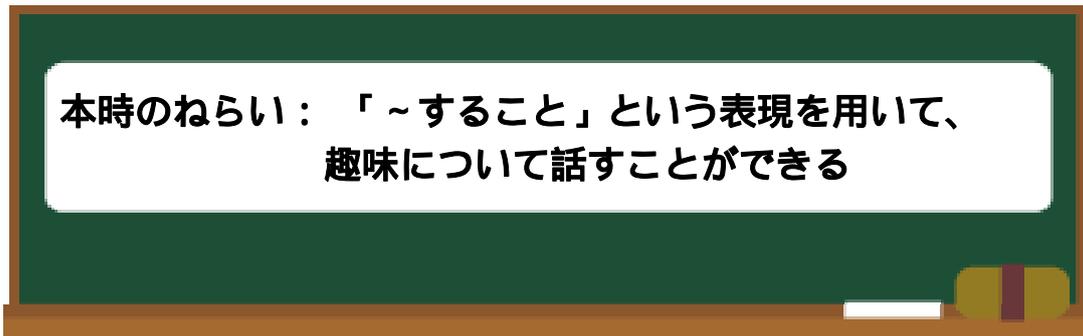
それでは、生徒にとって分かりやすい「本時のねらい」とは、どのようなものか、2年生の動名詞を扱う授業について考えてみましょう。例えば、次のようなねらいはどうでしょうか。

本時のねらい： 動名詞の使い方

本時のねらい： ~ing（~すること）の使い方

まず、「動名詞」と言われても、生徒はどのような表現形式なのか見当もつかないのではないのでしょうか。また、いずれのねらいも、授業を通してどのような力が身に

付くのが明確ではないので、生徒にとっては分かりにくいものとなっています。そこで、次のようなねらいにしてみてもはいかがでしょうか。



このようなねらいにすれば、今日の授業で何が身に付くのがはっきりします。生徒は、どんなことができるようになるのかが分かり、学習意欲も高まることが期待できます。ここで大切なのは、教師側の視点からのねらいではなく、教師と生徒が共有できるねらいとするということです。



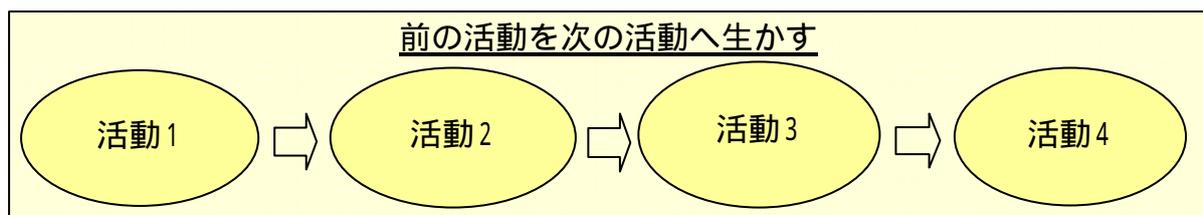
今日の授業をがんばれば、自分の趣味を英語で言えるようになるんだ。
よし、やるぞ!

授業で行う各活動の有機的な関連を図りましょう

授業は、その時間のねらいを達成することを目指して行われます。そこで教師は、そのねらいを達成するために、どのような流れで授業を行ったらいいか、また、どのような活動を設定すると効果的かなどを考え、準備し、授業に臨みます。

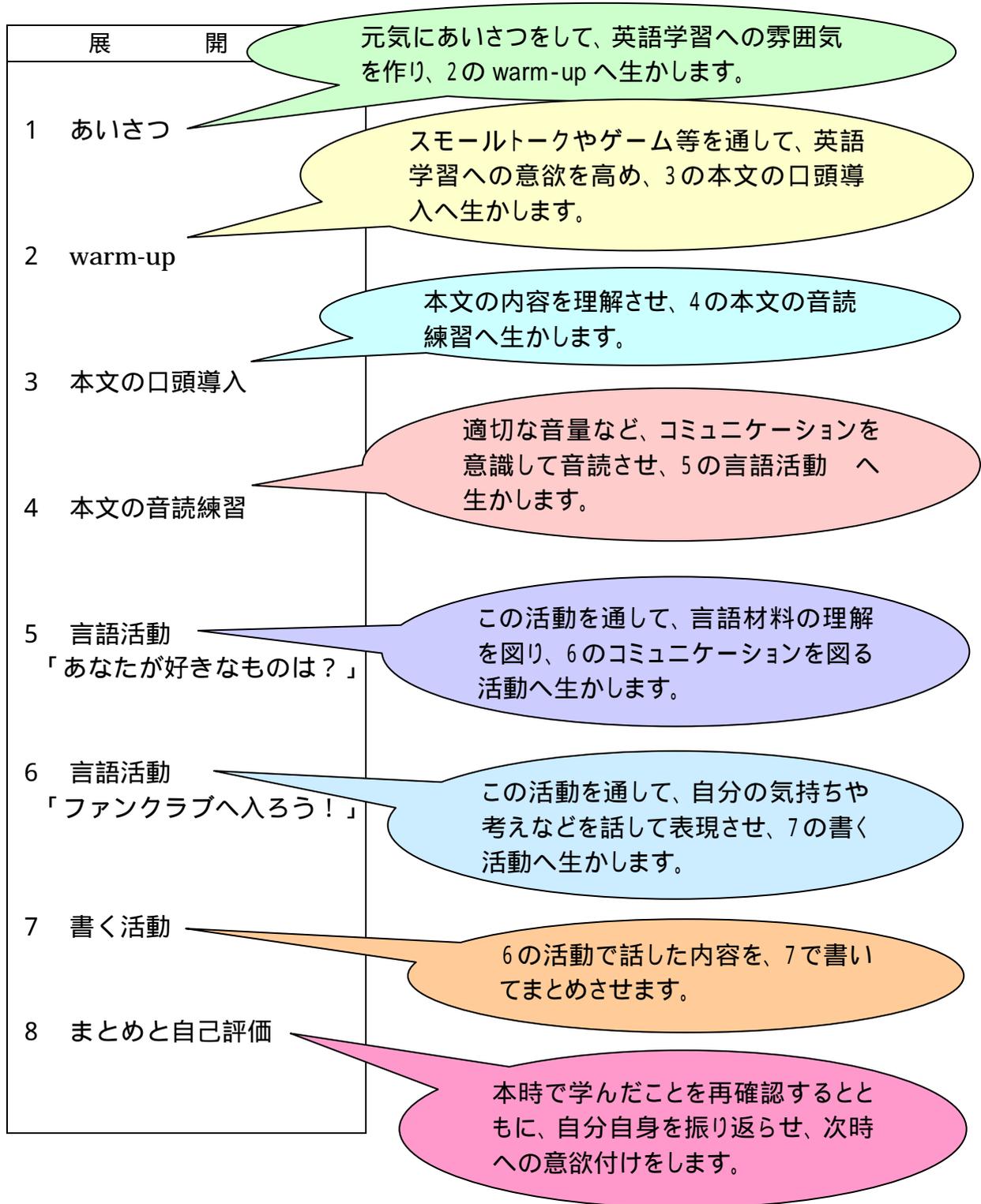
その際、教師が常に意識しておかなければならないことは、それぞれの活動を有機的に関連させて行うということです。有機的に関連させるとは、活動を次の活動に生かすということです。そうすることで、生徒の意欲の高まりや理解の深まりを促すことができ、生徒にとって「分かる授業」となります。

有機的な関連とは？



生徒の関心・意欲・態度の高揚や理解の深まりを促し、授業のねらいを達成する

次に示したのは、ある授業の学習指導案の展開部分と、各活動を関連させる際の留意点です。この授業で扱う文法事項は、「一般動詞の疑問文」であり、次のような関連を意識して指導することで、生徒にとって「分かる授業」となっていきます。



* 「言語活動」、「言語活動」及び「書く活動」の具体的な活動例は、「栃木の子どもたちの学力向上を図る授業改善プラン」(平成17年5月) 同(平成17年9月)をご参照ください。

2 家庭学習への意欲を高めましょう

教育課程実施状況調査によると、本県生徒の約8割は「英語の勉強は大切だ」と思っていますが、「英語の勉強が好きだ」と思っている生徒は、5割に満たない状況です。また、授業中の活動には積極的に取り組む生徒でも、家庭学習には地道に取り組むことができない生徒も多いと思われます。そのような生徒には、学ぶ喜びを実感できる学習に取り組ませることが必要ではないでしょうか。

生徒に「できた」という喜びを実感させましょう

これから、生徒に「できた」という喜びを実感させることができる取組を紹介しましょう。家庭で行う単語練習と授業で行う単語テストを関連付けた事例です。ちょっとした工夫をすることで、決して楽しいとは言えない単語練習にも、生徒は意欲的に取り組むようになります。

単語練習は、スペリングや意味を覚えるために行いますが、生徒はどれだけその意義を理解し、練習に取り組むでしょうか。例えば、宿題として単語練習を出すとき、「各単語を10回、書いてきなさい。」というように、練習する回数を指示することが多いと思われます。しかし、そのような指示を続けていると、単語を覚えなくても10回書けば練習を終わりにしてしまう生徒も出てくるのではないのでしょうか。そのような練習は、意味のあるものといえません。そこで、家庭で単語練習をしっかりと行えば、授業で喜びが得られるよう工夫し、生徒が主体的・積極的に家庭学習に取り組めるようにしていきましょう。

事例

生徒が宿題をやってきたかどうか、必ず確認する。その際、サインをしたり、シールを貼付したり、コメントを書いたりして、生徒の努力を賞賛する。

学習したことがすぐ結果に表れるよう、宿題を出した次時の授業で単語テストを実施し、「できた」という喜びを実感させる。

得点をグラフに表せるようにした個票を生徒にもたせておき、自分の努力の跡を視覚的に確認できるようにする。

<宿題 点検 単語テスト>というサイクルに慣れさせ、家庭学習が実り多いものであることを実感させる。



しっかりと家庭学習に取り組めば、結果となって表れるんだ。
これからも、がんばろう。